# 広川町郷土史研究会

テ以テ、

国民タルノ義務ヲ尽

ル可ラス云々

## 海外移民の奨励【その 2】

#### ~残っていた下廣川村の移民関係書類~

明治30年、

日本人移民の上

タリ、豊奮起セサル可ケンヤニ、我国ノ富強ヲ助クルモノ

ノ生活ヲ優ナラシムルト同時ルニアラスヤ、是レ実ニ各自

五六百円ノ金ヲ齋ラシ帰国セ

人ノ結果ヲ見ヨ。

近ク彼

ノ布哇出稼

ノ労働ヲ以テ、

参百円乃至塩々三ヶ年

と記されています にも移民に関することが記さ 八女郡是』(明治32年11

月

大ハ邦家経済ノ一部ヲ稗補シメ小ハ一村一家ノ富強ヲ謀リ、 壮挙ニシテ、地ヲ拓キ利ヲ求 翌年7月7日には、 発生し、外交問題へと発展。 陸が拒否される事件が次々と と厳しさを増しました。 移民を受け入れる環境は一 米国に併合され、 治31年9月) には、 『下廣川村是』第一 |略)良行ナル土 当然男子ノ企ツヘキ 出稼又ハ移住ヲナス ハワイへの ハワイが 一地ヲ選 П 明

るハワイへ の契約移民 ん業者によ

残っていま 民間あっせ 間における、 までの10年 年から39年 広川町に 明 治 30

下廣川村役場「海外渡航関係留」

### 海外移民を進めていたことが とあります。 わかります。 町村でも積極的に 国や県はもちろ

類である『海外渡航関係留. 下廣川村の移民関係書類 かつての下廣川村役場の書

> めることは否定できません。 歴史研究において、 地

も希 資料が記述内容の説得力を高 極めて貴重な資料である」 木宏直准教授は「全国的にも 局く評価しました。 この分野の資料は全国 「海外移民の奨励」 琉球大学教育学部 『広川町史』下巻の につ で花 元の

います る通 39年までの間に、 これにより、 達 照会などがつづら 明

申請をしていたことがわかり ワイへの出稼ぎ移民として、 村で渡航や旅券交付の 約30人が 治30年から

#### 広川町古墳資料館だより

昭和59年、上長延9号墳(6世紀後半)から被葬者 の装飾品である丸玉(径8mm×厚さ4mm)が出土し ました。この丸玉は現在、天河石(アマゾナイト)製の 可能性があるということで、九州歴史資料館で分析され ています。

天河石は翡翠と似た色調をもつ玉類で、朝鮮半島の青 銅器時代から初期鉄器時代(紀元前 700 ~ 100 年)に しか見られません。日本では弥生時代の遺跡から数点、 古墳から8点しか出土していない希少品です。しかし 当時は、渡来系遺物としての希少品の認

蛍光 X 線分析などで石材が判明すれば、 古代交易研究の重要な資料となることが 期待されます。

識はなかったと考えられています。



移ったハワイ移民 民間あっせん業者の手に

悪徳な業者から移民を保 明治27年4月13

る「移民保護規則」が公布さ 移民の送り出しを制限す

約移民は、

政策として進められてきた官 者の手に委ねられることとな れました。これにより、国の

民間のあっせん業

# 総合クラスひろかわ

#### 笑顔と歓声のスポーツ吹矢体験教室

各区のサロンで、スポーツ吹 矢体験教室を行っています。7 月には増永、太原、智徳区のサ ロンで実施しました。

参加者は基本動作や健康効果

について学んだ後、吹矢を実際 に体験。的に矢が当たるたびに 大きな歓声が上がりました。

増永区サロンは吹矢初体験。 「初めてだからどきどきする」

という声が聞かれながらも、皆 さん基本動作を大切にしながら 見事に的を射て、笑顔を浮かべ ていました。





家



太原区サロン

一 何 山

b

b

ح

 $\mathcal{O}$ 

61

て

か

5

寺

灯  $\mathcal{O}$ 

つ

盆

の

入

親ゥせ

族がせ

ぎ に に

L

ど 提

> つ 調 か

き

ぬ

話

や盆 葛の

の

膳

通送

火

6

び

ぼ

う

似

のだんご

添

り り

雨

は 7

に

風

の

秋

 $\otimes$ 

け 花

る



智徳区サロン

- 🛮 闘総合クラブひろかわ事務局(教育委員会事務局生涯学習係内) 🛣 0943-32-0093

一拳

上 本

0 か

火

むる十

の

Ħ の

ζ,

霊

届 見 の

け つ 汗

原爆

 $\exists$ 

病

深

る

生

身

Þ 0) 言 花

雷 む

送らる

孫 赤 盆

と 様

 $\lambda$ 

荒

た に 絆

る

畑

を

とび

廻

晴 れ 神

着

は

簡

単

ぼ風

気楽さと張り合ひなさの七日間今宵も一人の夕餉食みを 新盆の兄の想ひ出筑後川 若者を交へて踊る夏祭り会場まき込み齢を忘るる こんがりと焼けた笑顔の子供達ぎゅっとつまった夏の思ひ出 4の母の! 、四歳双子は人見知りする事もなくリュックを下ろす 高き木の上くまぜみは大音響で他に 人の家をたづぬ 好物揚げましたナスの天ぷらいちじく素揚げ ともに泳げり向ふ岸 れば近所の二 軒空地とな

久しぶり知 たらちね

盂蘭盆に発生がり

にかは

灯りともします線香花火が好きだった母

細 池川田 青木佳代子 瀬砂 武美智で 中 﨑 倉 智 玉子

れり

結 水 原 青 山 美 口木崎 座 瀬 本 本 あ 佳 砂 代 陽 智 時 辰 眞 0 美 司 美 子朗子次理 子 美

